2021年度 事業報告書
2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人　Colorbath

1　事業の成果

Web 交流事業（名称：DOTS）では、2020 年度に引き続き、国（文科省）のパイロット事業として山口県内の行政と連携し、公的な事業貢献を果たすことができた。また、DOTS の全国への普及を目指し、学校の先生が DOTS のファシリテーターとして自立していけるような、マスター制度の整備にも取り組んだ。

コーヒー事業では、JICS NGO 支援、アジア生協基金の助成を受けて、農家さんの協同組合運営サポート、販路拡大に向けたブランディング等を行い、今後の生産量拡大の基盤を築いた。

また、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」について、現地マラウイでの活動を本格的に開始し、病院やヘルスセンターが抱える課題を把握することができた。

その他にも、オンラインイベントを通した学びの場づくりや日本に住む外国人、来日予定の外国人のサポートなど幅広い事業展開を行うことができている。

2　事業の実施に関する事項

（1）　特定非営利活動に係る事業

事 業 名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位：千円）
① 国際交流事業	◆日本万国博覧会記念基金の採択も受け、ネパール、マラウイからの現地中継によるバーチャルツアーを実施した。	(A) 通年 (B) 山口県周南市富田中学校、山口県山口市立柚野木小学校、長野県諏訪市立城南小学校 (C) 3 名	(D)学校関係者、教職員、保護者、生徒、途上国に興味のある方 (E)計 300 名	2,012 千円
	◆ネパールの農村地域における雇用創出を目指したコーヒー事業を実施。今後の販売量拡大を目指し、コーヒーの品質向上を図るべく、加工設備、トレーニングの提供を行った。	(A)通年 (B)ネパール (C)4 名	(D)農家 (E)100 名	2,532 千円

② 留学生受け入れ事業	◆オンラインでの日本語会話の授業を実施した。 ◆日本での就労希望者のオンライン相談、面接サポートを実施した。	(A) 通年 (B) 全国及びネパール (C)2 名	(D)留学希望者、受け入れ教育機関 (E)50 名	100 千円 50 千円
③ スポーツ交流事業	実施なし			

（2） その他の事業

事 業 名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額（単位：千円）
① 国際交流事業	◆山口県、長野県の小・中学校にて、マラウイ・ネパールとつながる Web 交流活動を実施。生徒のみならず、教員の ICT 研修等も行った。 ◆マラウイ農村部における医療衛生環境の向上を目指し、現地病院、ヘルスセンターでの調査、太陽光でお湯を沸かすことのできるソーラーボイラーの試験利用を実施した。	(A) 通年 (B) 山口県周南市富田中学校、山口県山口市立柚野木小学校、長野県諏訪市立城南小学校 (C) 3 名 (A) 通年 (B)マラウイ共和国、兵庫県姫路市 (C)3 名	3,319 千円 3,437 千円
② スタディプログラム事業	◆教育者と社会をつなぐ実践型コミュニティ「Educators Innovation Lab」にて、大阪高等学校と知育玩具開発を行うアーテック株式会社での協働プログラムを実施した。 ◆約 20 回に渡るオンラインイベントを企画実施し、全国の様々な方との対話の場を設けた。	(A) 4 月～11 月 (B) 大阪府八尾市 (C) 3 名 (A) 通年 (B) 全国及びネパール (C)4 名	604 千円

（備考）

1　２は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。

2　２(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

2021 年度の事業報告書（詳細）

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人　Colorbath

1　事業の成果

Web 交流事業（名称：DOTS）では、2020 年度に引き続き、国（文科省）のパイロット事業として山口県内の行政と連携し、公的な事業貢献を果たすことができた。また、DOTS の全国への普及を目指し、学校の先生が DOTS のファシリテーターとして自立していけるような、マスター制度の整備にも取り組んだ。

コーヒー事業では、JICS NGO 支援、アジア生協基金の助成を受けて、農家さんの協同組合運営サポート、販路拡大に向けたブランディング等を行い、今後の生産量拡大の基盤を築いた。

また、独立行政法人国際協力機構（JICA）から採択を受けた「マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（草の根支援型）」について、現地マラウイでの活動を本格的に開始し、病院やヘルスセンターが抱える課題を把握することができた。

その他にも、オンラインイベントを通した学びの場づくりや日本に住む外国人、来日予定の外国人のサポートなど幅広い事業展開を行うことができている。

2　事業内容

【ヒトづくり事業】

＜1. ネパール・マラウイと日本の青少年におけるグローカル交流プログラム＞

日本万国博覧会記念基金の助成事業として、ネパール・マラウイと日本の青少年におけるグローカル交流プログラムを実施した。日本の生徒とアジア(ネパール)・アフリカ(マラウイ)の生徒とのオンラインでの国際交流を通して、世界をより身近に感じながらグローバルな思考を育み、自分たちの地域 社会(ローカル)の良さや課題に気づき、貢献できる人材を育成することを目的とした。

①　概要

実施期間	2020 年 7 月～2020 年 3 月
対象地域	ネパール、マラウイ、山口県
参加者・人数	316 名（国内 202 名、海外 114 名）
連携	周南市立富田中学校（山口県） 山口市立柚野木小学校（山口県） カプタ小学校（マラウイ）

② プログラム全体スケジュール

日程	プログラム内容	詳細
9 月 2 日	国際交流の促進 日本教員 4 名、ネパール教員 1 名、マラウイ教員 1 名	日本・マラウイ・ネパールの先生同士の交流を行った。コロナ禍における学校現場の状況を共有し、ICT 活用した国際交流の促進について協議した。
10 月 20 日	国際交流プログラム「DOTS」（山口県周南市×ネパールカトマンズ） 日本：35 名、ネパール 16 名	周南市立富田中学校とネパールのサンスカール小学校との文化交流を行った。周南市の地域伝統舞踊の三作神楽とネパール民族舞踊の紹介をとおして、地域から世界へと繋がり、発信できる楽しさを実感した。
11 月 18 日	国際交流プログラム「DOTS」（長野県諏訪市×ネパールカトマンズ） 日本：38 名、ネパール 16 名	長野県諏訪小学校 5 年生とネパール・サンスカール小学校生徒との相互理解交流を行った。学校で勉強している授業科目の共有や、空手や歌・ダンスの披露などを通して、言語を越えた交流の素晴らしさを体感した。
12 月 4 日	マラウイバーチャルツアー（日本全国×マラウイムジンバ） 日本：34 名　マラウイ：20 名	オンライン実施によって、日本全国各地から小中高生が保護者の方々も一緒になって参加した。ムジンバの町並みと市場の様子、実際の現地の主食についても食レポしながらマラウイの様子を届けるツアーに、参加者の方々からは「また開催してほしい」との声をいただいた。
12 月 5 日	マラウイオンラインホームステイ（日本全国×マラウイムジンバ） 日本：19 名　　マラウイ：20 名	現地の人の家からお届けするホームステイプログラム。自宅の間取りツアーから実際に調理をしている様子も配信。現地の人がよく食べる食材や生活に関するクイズなども取り入れ、一方通行なオンライン配信ではなく、参加者の方々との対話を重視したプログラムとなった。
12 月 21 日	国際交流プログラム「DOTS」（山口県周南市×ネパールカトマンズ） 日本 12 名、ネパール 8 名	周南市立八代小学校とネパールサンスカール小学校の相互理解交流を行った。八代地区ならではの地域の魅力について、英語での発表があり、ネパールの生徒も国の鳥や国歌・ダンスを披露するなど、双方向のやりとりを深めた。
1 月 21 日	国際交流プログラム「DOTS」（山口県山口市×マラウイリロングウェ） 日本：25 名、マラウイ：7 名	山口市立柚野木小学校の生徒・保護者とマラウイメンバー・生徒による地域理解交流が実施された。マラウイで課題となっている「森林伐採」をテーマに、太陽光を活用した活動の紹介を受け、柚野木小の生徒や保護者の方々からは、地球環境保全のためのアイデアや意見が活発に議論された。
2 月 18 日	国際交流プログラム「DOTS」（山口県山口市×マラウイムジンバ） 日本：10 名、マラウイ：7 名	山口市立柚野木小学校の生徒とマラウイカプタ小学校生徒による相互理解交流が実施された。学校生活や自分たちの趣味をテーマに、日本アニメの紹介や日本とマラウイの共通科目である「算数クイズバトル」が行われた。子どもたちならではの、同世代同士で交流を楽しむ姿に友情の絆を感じた。
3 月 12 日	ネパールバーチャルツアー	ネパール・カトマンズのダルバール広場より、町並

	（日本全国×ネパールカトマンズ） 日本：25 名、ネパール：20 名	みや人々の生活背景、市場の様子を届けるツアーを行った。食材や商品価格のクイズなども盛り込んだ内容だったため、現地の人との交流だけでなく、実際に現地を訪れる感覚を味わえる時間となった。

＜2. 2021 年度 EDU-Port ニッポン パイロット事業 ＞

2020 年度に引き続き、文部科学省の公認プロジェクト「日本型教育の海外展開推進事業」として事業を実施した。2020 年度の山口県内での活動が他地域でも認識されはじめ、周南市立富田中学校以外にも、山口市立柚野木小学校、その他の小学校とも多数連携し、Web 交流プログラムを実施した。

① 概要

マラウイと日本の地方部（山口県）の生徒・教師同士がオンライン／オフラインで互いに交流を行う。教科の教授法のみならず、日本の学校のクラス運営の手法等を共有することで、教師 1 名につき生徒が 100 名いるような状況においても効率的な運営ができるよう日本式教育を輸出することが目的。教師への ICT 活用のトレーニングに加え、実際にマラウイと日本の同世代の生徒同士のやりとりすることで、日本式教育のクラス運営等の手法をマラウイの生徒・教師が実践することへの動機づけを行った。

学校名	富田中学校 （山口県周南市）	カプタ小学校 （マラウイ・ムジンバ県）
担当教諭	吉岡先生（校長） 水島先生	Wongani 先生 Victoria 先生
参加生徒数	26 名	10 名
参加生徒	生徒会（2~3 年生）	有志

学校名	柚野木小学校 （山口県山口市）	カプタ小学校 （マラウイ・ムジンバ県）
担当教諭	勝間田先生（校長） 栗田先生	Wongani 先生 Victoria 先生
参加生徒数	5 名	12 名
参加生徒	5~6 年生	有志

② プロジェクト全体スケジュール

・富田中学校：10 月 28 日、 12 月 2 日、12 月 17 日
・富田東小学校：10 月 15 日、10 月 18 日（※市内公開授業としての実施）
・柚野木小学校：9 月 24 日、11 月 5 日、2 月 18 日

③ 成果

周南市教育委員会と連携し、市内の英語専科・学年担当の教員が集まる「外国語教育研修会」にて、オンライン交流を公開授業として実施した。この研修開催をきっかけに、「周南市立八代小学校」「周南市立岐山小学校」における、生徒同士の Web 交流運営・実施にもつながった。また、現場の教員のみでの Web 交流運営を実施している富田中学校での取り組みから、山口市立柚野木小学校での定期交流の

開始にもつながった。さらには、柚野木小学校の校長先生が、山口市教委や県教委にも本取り組みを紹介してくれたことから、現在では、山口県全土への広がりを見せ始めている。

＜3. Educators Innovation Lab＞

① 概要

「教育者と社会をつなぐ実践型コミュニティ」として、Colorbath が主体となり立ち上げたソーシャルコミュニティ。日本全国の先生、そして教育に関心のある社会人や学生がつながり、ともに自らの実践を通して学び合い、高め合うコミュニティで約 15 名が参加している。多くの方々の協力を得ながら構想を形にすることができた。

② 詳細

本年度は、コミュニティの中でできたつながりから、大阪高等学校の生徒が、知育玩具開発を行う株式会社アーテックで発売する新商品を考案するという企画を行った。生徒は 4～5 人のグループになり、商品のアイデアを考え、サンプルを試作し、アーテック社員の前で新商品の提案プレゼンテーションに取り組んだ。約半年間かけて、企画から中間発表、最終発表までを行った。

③ 成果

生徒にとっては、自分たちが考案した商品の魅力を、アーテック社員相手にプレゼンテーションするという、貴重な経験を提供することができた。アーテック社員にとっても高校生の発想から気づきを得たり、実際に商品化できるアイデアを得られたりと、お互いにとって学びの多いプログラムとなった。両者から、翌年度以降も継続的な取り組みにしたいという声をいただいた。

＜4. ラウンジ ZEPO＞

① 概要

ラウンジ ZEPO とは、「ラウンジ×Z 世代×People」をかけ合わせたもの。現在の大学生から社会人 1、2 年目の Z 世代の人々が気軽に語り合えるオンラインの場で、Colorbath のインターン生が中心となって運営してきたコミュニティ。

② 詳細

日付	時間	タイトル	内容
6/21	20:00 ～21:30	第 1 回 ラウンジ ZEPO スタート	3 人の学生が集い、大学でどんなことを勉強しているのかという話から、最近のマイブームまで幅広く対話を行う。
8/5 ～9/5	－	第 2 回 マットカッツに続け！30 日間チャレンジ	アメリカのエンジニア Matt Cutts による TED トーク、"Try something new for 30 days"を指針に、参加者同士で励ましあいながら、新しい習慣にチャレンジする。
9/11	20:00 ～21:30	第 3 回 原点を探る座談会①	ゲスト：帝京大学看護学科 中土井伶衣さん 「私らしい看護師としての在り方」

11/2	20:00 ～21:30	第 4 回 途上国開発について見つめなおす会	途上国開発に関心のある人が最前線で働く人と対等な立場で話す座談会
11/13	10:00 ～11:30	第 5 回 原点を探る座談会②	ゲスト：Colorbath 職員 那波多目健太 「過去を大切に、今を愉しむ」
12/7	20:00 ～21:30	第 6 回 原点を探る座談会③	ゲスト：筑波大学国際総合学類 薄井多空見さん 「国際協力×医療」
2/25	19:00 ～20:30	第 7 回 『らしさ』ってなんだろう？ ～ジェンダーバイアスを手がかりに～	誰もが無意識に持ってしまっている「男らしさ」「女らしさ」というジェンダーバイアスを手がかりに、参加者との対話を通して深め合う。

③　成果

オンラインイベントの参加をきっかけに、Colorbath の活動を知ってもらうきっかけにもなり、学生インターンの応募やプロボノとしての関わり方へとつなげることができた。また、参加者とのディスカッションを交え、アイデアを出し合うことによって、新たなイベントのテーマやカタチを創出することもできた。

【コトづくり事業】

＜1. 持続可能なコーヒー事業（アジア生協協力基金、JICS NGO 支援）＞

①　概要

ネパール人の多くは農業従事者であるが、気候やインフラの整っていない環境では物流面での課題が多く、収入を向上させることが難しいという課題がある。そんな貧困地域の補助のため、質を高めたコーヒー産業で雇用創出と収入向上を目指し、ネパールの魅力を引き上げる支援を行っている。また、この事業をとおして先進国の人々が、「仕事とはなにか」「働くとは何か」「農業や食とは何か」を考え直すきっかけを提供し、持続可能なライフスタイルを提案していくことを目指す。

②　プロジェクト全体スケジュール

＜2021 年 4 月～7 月＞

・現地カウンターパート、生産者組合とのオンライン打ち合わせを実施

・専門家と精製基準や栽培基準についての協議を開始

・新型コロナウイルスの影響による行動規制により、2021 年度はコーヒー苗の配布を断念

＜2021 年 8 月～11 月＞

・カウンターパートによる 2021 年度 1 回目のモニタリングを実施

・品質管理リーダー2 名を選出

・2 回目、3 回目のモニタリングも実施

＜2021 年 12 月～3 月＞

・品質向上のための加工設備（マイクロミル）を協同組合に提供

・専門家によるコーヒーの加工・精製に関するオンラインセミナーを実施

・ネパール国内での販売に向けた工場の稼働、パッケージの作成に着手
・日本への輸出に向けてサンプルの品質評価を実施

③　成果
年度始めは、ネパール現地でも厳しい行動規制が敷かれていたが、現地カウンターパートと協力しながら、現地の状況把握に努めた。制限された状況下でのやり取りが多かったこともあり、年度後半には、村の状況をリーダーが主体的に報告してくれるようになるなどの成果もみられた。また、持続可能な販路確保に向けて、品質向上に関する技能や設備の提供、ブランディング戦略の策定などにも取り組み、今後のプロジェクト拡大基盤を整えることができた。

＜2. 2021 年 EDU-Port 学校保健・ICT 調査事業＞

①　概要
マラウイにおける学校保健や ICT 分野の設備環境、教員の意識や取り組みの実態を分野ごとに整理する。その調査を踏まえ、保健委員や学校組織運営に関する日本型教育の知見を活用して学校保健環境の向上に向けた実証活動を行った。 その際、日本とマラウイの学校同士が ICT を活用した交流を通して互いに学び合う機会を作ることで、with/post コロナにおける国際交流活動のモデルとして日本の教育現場の活性化に貢献することを目指す。

②　プロジェクト全体スケジュール

実施期間	活動内容
9月24日 ～2月18	■日本とマラウイの学校のオンライン交流 先生同士の交流、生徒同士の交流を行い、お互いに母国語と英語を交えながら交流を行った。1回あたりそれぞれ1時間程度。
10 月 22 日～ 12 月 8 日	■設備環境調査の実施 マラウイ、ムジンバ県における公立・私立学校の2校において、水道やトイレ、石鹸や保健室、電力や通信、機材設備等の環境面の実態を明らかにする調査を行った。 ■意識調査、取り組み状況調査の実施 意識（教師や親の知識やリテラシー。課題意識や改善に向けたモチベーション等）の調査、及び学校における取り組みの調査も実施した。 ■対象生徒 公立学校の生徒、私立学校の生徒についての調査。6年、7年生にあたる生徒約60名への調査。
11 月 1 日 ～2月16日	■マラウイでの普及活動 マラウイの教育局担当者（地域の複数の学校と担当するアシスタントコーディネータ）をカウンターパートとして、日本の学校との交流を通して学んだことを、他の先生への共有、指導を行ってもらった。日本側から遠隔で、助言を行い、学校における保健衛生担当の先生を中心にして共有を行った。 ・コロナの影響もあり、学校から各家庭への訪問や指導については、現地からの要請もあり、安全を考慮し見送ることとなった。
11 月 1 日 ～2 月 17 日	■活動成果の還元 ・オンラインでの共有会、マラウイの生徒、先生をつないだ交流会を実施。（富田中学校、柚野木小学校、周南市教育委員会） ・他のNGO/NPOへの還元。現地の状況や取り組みの共有会を複数回実施。（NPO法人ISAPH）

	・EDU-Portプラットフォームへの還元。現地の状況や取り組みの共有会を複数回実施。 ・教育機関への還元。現地の状況や取り組みの共有会を複数回実施。今後の調査に対する意見交換も実施。

③ 成果

１）日本の教育の国際化など教育の質的向上

マラウイの学校とつなぎ、英語を交えながら互いに交流することを通して、アフリカに対する不安やネガティブなイメージが払拭され、日本の子どもたちが自発的に質問をしたり、リアクションをしたりする姿が多々みられるようになった。また、当初、ICT を活用した交流に不安を感じていた先生が、実際にオンラインでの交流を体験したことで、プロジェクト後半には、主体的に交流をファシリテートする姿が見られた。

2）相互理解の促進と国際社会への貢献

電気やガスがないために薪を毎日使用していて、森林破壊が深刻化しているというエピソードをマラウイの方から直接聞いたことで、SDGs や気候変動といった課題が自分ごととなり、日本の生徒の今後の学習意欲の向上につながった。

３）日本経済成長への還元

SDGs 貢献に力をいれている日本の通信系企業との協議の中で、マラウイの衛生環境向上や環境保全について積極的に学び、関わっていきたい、と話す社員が複数名現れた。また、グローバルヘルスという文脈で、日本の大学等の研究機関に対して、マラウイの学校保健の状況を共有したことで、今後の連携の可能性を見いだせた。

＜3. マラウイ農村部におけるサステナブルな衛生環境の向上支援事業（JICA 草の根支援型）＞

① 概要

マラウイではまだまだインフラが整っていない地域が多く、医療器具や飲料水の煮沸消毒等がなされておらず、医療施設から各家庭まで不衛生な環境状態である。不衛生な環境状態は、衛生環境への適切な知識がないこと、簡単に煮沸消毒が行える設備等が不足していることが原因となっている。これに対して、現地医療機関や住民への衛生環境に関する知識提供、太陽光熱の活用方法指導を行うことで、衛生環境の向上を目指す。また、太陽光熱を利用してお湯を沸かす方法（ソーラーボイラー）は、アルミ素材やスナック菓子の袋の内側等を現地調達することで自作できるので、その方法を現地 NGO 団体へ技術指導し普及活動も行う。

② プロジェクト全体スケジュール

期間：2021 年 2 月～2023 年 6 月（2 年 5 ヵ月）

活動内容：

① 不衛生な環境の問題点を C/P に共有し、対策方針と体制を構築
② 県病院の衛生環境マネージャーへ太陽光熱活用と衛生環境向上の技術指導
③ ヘルスセンターの環境整備と住民への衛生環境セミナー実施
④ 中央保健省や NGO と連携し他地域への普及活動の実施
⑤ 国内広報活動と総括

③　成果

プロジェクトエリアであるムジンバ県の DMHT(District Health Management Team)、DEC(District Executive Committee)、TA(Traditional Authority)、マニャムラヘルスセンター、ムジンバ県保健局にてプロジェクト概要説明を行なった。また、衛生環境マネージャー配置に向け、県病院スタッフで構成される Task Force を結成し、今後の活動について話し合いを実施した。ヘルスセンターでの滅菌状況調査やベースライン調査も行い、現状と課題の把握もできた。2021 年度は、プロジェクトが本格始動して、初めての現地渡航となったが、今後の衛生環境向上に向けて現地での基盤を整えることができた。

【その他】

＜1. 活動報告会＞

①　概要

Colorbath がこれまでに取り組んできたプロジェクトの過程を、応援者の方々にお伝えし、これからの活動について意見交換をするオンラインイベント。Web 交流「DOTS」事業と持続可能なコーヒー事業について、プロジェクト開始から現在に至るまでの歴史を丁寧に振り返り、応援者の方との交流を深めた。

②　詳細

タイトル	ネパールのコーヒープロジェクトのはじまりとこれから
日程	10/16(土) 14:00-16:00
参加者・人数	7 名
内容	・参加者同士の自己紹介 ・イントロダクション ・コーヒープロジェクトのこれまでの歩み ・コーヒープロジェクトの今後の展望 ・質疑応答・参加者とのディスカッション

タイトル	Web 交流プログラム「DOTS」のはじまりとこれから
日程	10/20(水) 19:00-21:00
参加者・人数	7 名
内容	・参加者同士の自己紹介 ・イントロダクション ・DOTS のこれまでの歩み ・DOTS の今後の展望 ・質疑応答・参加者とのディスカッション

③　成果

2021 年度の活動報告会は、Colorbath としてプロジェクトのプロセスや裏側を外部に発信する初めての機会となった。これまで情報発信を積極的に行ってこなかったが、今回、活動内容を丁寧に報告する機会を設けたことで、応援者の方々のプロジェクト理解も深まり、今後の活動に関するアイデアももらうことができた。

＜2. オンラインイベント＞

日付	タイトル	内容
9/20	ファンとの交流会	学生、会社員、教育機関関係者まで、多様なバックグラウンドを持つ Colorbath のコアファンに向けたオフ会
10/4	ファンへのヒアリング	Colorbath のブランディングに関する意見収集
10/8	ファンへのヒアリング	Colorbath のブランディングに関する意見収集
11/4	ファンへのヒアリング	Colorbath のブランディングに関する意見収集
12/22	ファンとの意見交換会	DOTS のプログラム設計について
2/4	ファンとの意見交換会	団体の情報発信戦略について
2/27	コーヒー購入者からのヒアリング会	コーヒー購入に至った理由、改善点ポイントについて
3/31	ファンとの意見交換会	コーヒーの今後のブランディング戦略について

＜3. 講演等＞

① 立命館大学・経営学部

日時	2021 年 6 月 25 日
場所	立命館大学・茨木キャンパス
参加者・人数	約 200 名（1 年生～4 年生）
内容	・ビジネスと社会貢献活動の両立 ・国際協力とビジネスの両立 ・ソーシャルデザインと経営

② 兵庫県立御影高等学校

日時	2021 年 7 月 13 日（学校訪問）・12 月 16 日（オンライン）
場所	兵庫県立御影高等学校
参加者・人数	約 70 名（人文コース 1 年生・2 年生）
内容	・これまでの人生と世界のつながり（マラウイでの活動） ・これからの働き方、コーヒー事業

③ NTT コム エンジニアリング株式会社

日時	2021 年 10 月 5 日
場所	NTT コム エンジニアリング株式会社
参加者・人数	80 名の社員
内容	・ソーシャル・ビジネスの在り方 ・これからの社会に求められること

④ 周南市立富田東小学校

日時	2021 年 10 月 14 日
場所	周南市立富田東小学校

参加者・人数	約 200 名（5・6 年生＋保護者）
内容	・これまでの人生と世界のつながり ・マラウイ・ネパールと私たちの生活

⑤ 大阪府立東住吉高等学校

日時	2021 年 10 月 21 日
場所	大阪府立東住吉高等学校
参加者・人数	320 名
内容	・世界を良くする仕事の仕方 ・やりたいことを仕事にするための方法

⑥ 山口市立柚野木小学校

日時	2022 年 1 月 21 日
場所	山口市立柚野木小学校
参加者・人数	生徒 5 名、教員 3 名、保護者・市教委職員約 10 名
内容	・これまでの人生とマラウイでの生活 ・マラウイにおけるソーラーボイラーの活用

⑦ 宮崎県立高千穂高等学校

日時	2022 年 3 月 3 日
場所	宮崎県立高千穂高等学校
参加者・人数	10 名
内容	・受験勉強の大切さ ・高校 3 年生になる心構え

⑧ 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

日時	2022 年 3 月 9 日
場所	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
参加者・人数	30 名
内容	・グローバルリーダーがもつべきマインドセット ・これからの企業が取り組む SDGs とビジネス

3 メディア掲載等

媒体	内容
Vision Hacker Awards 2021	「日本の技術と太陽の力で、いのちと地球を守る」 ～最貧国マラウイの衛生環境向上に向けた持続可能なソーラーボイラー事業～
PR TIMES	【プレスリリース】ネパール農村部に雇用を創る「ネパールのつぼみコーヒー」販売開始
山口新聞	山口市立柚野木小学校とマラウイ・カプタ小学校の Web 交流プログラム「DOTS」
Panasonic HP	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs

The Eight Peaks （ネパール現地メディア）	コーヒーの生産地におけるマイクロミル（収穫後のコーヒーを精製する加工場）のオープンセレモニー
Milijulikhabar （ネパール現地メディア）	コーヒーの生産地におけるマイクロミル（収穫後のコーヒーを精製する加工場）のオープンセレモニー
Namobuddhakhabar （ネパール現地メディア）	コーヒーの生産地におけるマイクロミル（収穫後のコーヒーを精製する加工場）のオープンセレモニー
中国新聞 SELECT	マラウイでのソーラーボイラープロジェクト

貸　借　対　照　表

令和 4年 3月31日　現在

特定非営利活動法人Ｃｏｌｏｒｂａｔｈ　　（単位：　　円）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	8,412,553	【流動負債】	1,390,557
現金及び預金	4,892,553	未払金	217,357
売掛金	3,520,000	未払法人税等	1,173,200
		【固定負債】	2,493
		長期借入金	2,493
		負債の部合計	1,393,050
		純資産の部	
		【株主資本】	7,019,503
		利益剰余金	7,019,503
		その他利益剰余金	7,019,503
		繰越利益剰余金	7,019,503
		純資産の部合計	7,019,503
資産の部合計	8,412,553	負債及び純資産合計	8,412,553

事業所名：特定非営利活動法人Ｃｏｌｏｒｂａｔｈ

損益計算書

自令和３年４月１日　至令和４年３月３１日

（単位　:円）

勘定科目	<非収益事業>	<収益事業>	<合計>
[売上高]			
売上高	1,615,000	8,670,508	10,285,508
補助金収入	1,247,117	752,883	2,000,000
寄付金収入	1,200,395	1,205	1,201,600
売上高合計	4,062,512	9,424,596	13,487,108
[売上原価]			
期首商品棚卸高	0	0	0
当期商品仕入高	0	0	0
合計	0	0	0
期末商品棚卸高	0	0	0
売上原価	0	0	0
売上総損益金額	4,062,512	9,424,596	13,487,108
[販売管理費]			
福利厚生費	31,933	97,291	129,224
採用教育費	27,878	84,936	112,814
外注費	2,995,546	3,623,887	6,619,433
荷造運賃	2,671	8,139	10,810
交際費	15,188	56,639	71,827
会議費	44,268	179,367	223,635
旅費交通費	586,704	3,009,211	3,595,915
通信費	27,800	86,406	114,206
消耗品費	140,593	428,340	568,933
支払手数料	44,593	126,720	171,313
保険料	0	0	0
租税公課	2,817	8,583	11,400
寄付金	910,000	0	910,000
雑費	0	55,097	55,097
販売管理費計	4,829,991	7,764,616	12,594,607
営業損益金額	-767,479	1,659,980	892,501
[営業外収益]			
受取利息	73	0	73
雑収入	50,000	3,104,870	3,154,870
営業外収益合計	50,073	3,104,870	3,154,943
[営業外費用]			
営業外費用合計	0	0	0
経常損益金額	-717,406	4,764,850	4,047,444
[特別利益]			
特別利益合計	0	0	0
[特別損失]			
特別損失合計	0	0	0
[当期純損益]			
税引前当期純損益金額	-717,406	4,764,850	4,047,444
法人税、住民税及び事業税	8	1,173,200	1,173,208
当期純損益金額	-717,414	3,591,650	2,874,236